



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年10月1日

10月号・第141号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



奈良市福智院  
今昔のひたまり  
松村連也 作

2013.8.6

Y. Sakai

## Contents

§ § § § §

多士済々.....	①	青垣春秋.....	⑩
8月山と森林の月間協賛イベント報告.....	②	俳句百景.....	⑪
Monthly Repo.ならやま.....	③	癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑫
里山の今.....	④⑤	Galleryならやま.....	⑬
9月例会報告.....	⑥	ならやま旬景.....	⑭
自然教室チームだより.....	⑦	ならやま景観整備.....	⑮
景観サポーター活動体験.....	⑧	行事案内&奈良学クイズ.....	⑯
春日中学年生ボランティア体験.....	⑧	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記.....	⑰
やさしい昆虫講座⑩.....	⑨		

山仕事の似合う

多士崎

竹本雅昭さん

顧問 川井 秀夫

会報誌が届くと、先ず目が行くのが小咄し風の里山戯評欄。小動物・昆虫・植物・野鳥など擬人化された主人公が、人間様の所業を揶揄するのだが、最後は里山人の良心を理解してチョンになる話。

作者は竹本雅昭氏。当会に入会されたのは平成15、16年頃でしょうか。COOPの広報で、我々の活動を目にされたのが動機だったと、お聞きしております。柳生国有林の間伐作業に、若々しい助っ人として登場され、意を強くした事が思い出されます。

或る日。私とペアを組み、杉の大木を伐倒した時のこと。縄掛け、切り口、追い口とマニュアル通り手順を進めたものの、最後の鋸が深く入ったのか“ミシッ”と音を立て木の重心が逆の方向に傾く。先を見ると関西電力の送電線が目に入る。必死にロープを引っ張るが、次の手が打てない。「ヘルプ」「ヘルプ」と大声で同僚を呼び、事なきを得たが、正に「冷汗三斗」とはこの事かと。後で監督役のTさんから竹本さんに大叱声、気の毒やら申し訳ないやら、私も同罪者として神妙に頭を垂れた事が蘇ります。

場は移り、なら山においても農事・環境整備・山仕事と幅広く里山の遊撃手として活動して頂いております。温厚なお人柄で、奥様の闘病の際には、献身的に介護された愛妻家でもあり、不言実行の方と敬服しております。私より十年若く、活動の中核として長く頑張ってく様、エールを送りたいと思っております。



2012年のらの会「佐保自然の森」▲  
(右から2番目)

私的には、彼と酒席を共にする事は多くありませんが、「のらの会」のメンバーとして、いつも乱れる事なく、忘年会・収穫祭などにも静かな酒友として参加され、なまくら酒の私など、鏡になる様なお方と思っております。

また、柳生の思い出も遠くなりましたが、山の仕事人として出で立ちもぴったりと、なかなかのスタイリストとしたイメージが残ります。

十年の歳月を経ましたが熟達の戦力として、このなら山の地で益々のご活躍を期待しております。

人生とは淡々と流れる水の様なもの、人それぞれに水の上に描いた絵の様なもの。頑張らしましょう。



2008年 例会：吉野川源流・三ノ公川 ▲  
(右端)

8月山と森林の月間協賛イベント報告

**ならやまの自然観察と自然工作  
バウムクーヘンを焼こう**

奈良県の夏休みイベント『山と森林の月間』に協賛して、「ならやまの自然観察と自然工作バウムクーヘンを焼こう」を8月24日に開催しましたが、14グループ(家族)40名の親子の参加がありました。

あいにくの悪天候の中での開催で、当初参加予定の79名は半減しましたが、親子共々元気いっぱい活動に取り組みました。ただ雨模様の天候のためプログラムを短縮したり、他のものに变更せざるを得なかったこともあり、「山遊びをしたかった。」とか「山の上であそびたかった。」という率直な声もたくさん聞かれました。申し訳なく思っています。しかし、ゆったりした人数で、ゆったりとプログラムをこなすことができたのも、大きな成果ではなかったのでは、と思われました。

最初に取り組んだのは竹ポックリ作り。テントのなかで竹ポックリを作ったあとは、霧雨の中での遊び活動でしたが、みんな元気いっぱい。親子が共々声を上げながら仲良く活動するいい機会になりました。

そして昼食。手作りのジュースなども味わいながらの食事のあとは、お待ちかねのバウムクーヘン作り。これが参加者には一番の楽しみだったようで、「バウムクーヘンが作れてよかった。」「自分で焼いたバウムクーヘンは本当に美味しかった。また来たい。」との感想もたくさん寄せられています。また家で親子揃って焼いて欲しいものですね。



そして最後のプログラム、自然観察と植物を使った自然あそび。これは午前中の「自然観察、里山散策と遊びの広場」の代わりに設定したプログラムでしたが、短い時間で十分なことができるかな、といった杞憂もありましたが、意に反して大盛況。特にシダやオオバコ等を使った遊びには大人も子供も大喜び。時間いっぱいを有効に楽しく過ごせたのではないのでしょうか。急遽このプログラムの指導をお願いしたスタッフの皆さんには負担をかける結果になり心苦しく思っていますが、普段こういった活動を地道に重ねておられる経験が十分生きたようです。短い時間に内容を一生懸命考え、いかに充実した内容にするか取り組んでいただいて感謝を申し上げます。



そしてこれと並行して残った時間を竹ポックリ乗り遊びに当てました。午前中の時間だけでは遊び足りなかったようです。ここでも親子一緒に楽しそうに遊ぶ姿が見えました。

それにしても悪天候の中、準備に指導にそして後片付け等にといろいろなところで頑張っていたスタッフの皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。しかも43名もの手助けがあったことにびっくりいたしました。今後共宜しくお願い致します。



(八木順一)

## Monthly Repo.ならやま

### ◆ 8月29日(木) 晴れ 54名+8名

佐保自然の森のフラワーロードで黄花コスモスが黄色の花をいっぱいつけ満開。ヒマワリ、コスモスも咲き始めた。

里山Gは、カシナガ被害木の洗い出し調査。農園Gはダイコン、ハクサイなど秋野菜の植え付けに向けて畑の整地作業を開始。

彩りの森、ならやま池の周りは雑草が繁茂し、草刈り隊が活躍するも焼け石に水。ソバは種まき後の慈雨によって生えそろう、間引きを開始。

どじなマムシが2匹、カシナガの粘着トラップに捕まり、さらに山でも1匹捕まった。要注意！！

### ◆ 9月5日(木) 曇り一時雨 52名+2名

一気に涼しくなったので活動は平常通り3時まで行った。

第3駐車場入り口の通路が崩れやすくなっていたので補強。BCテント裏の水路の泥つまりを除去(先般の雨ではテント前が川となって通路が大きく掘れ返った)。

里山Gは、第5地区の通路沿いの樹木整理。クズが樹の先端にまで絡みつき、その処分に一苦労。農園Gは、ニンジン・ダイコン・コマツナなど秋野菜の種まきを開始。

景観Gは、彩りの森、ならやま会館前の空き地、池のまわりの草刈り。どこも草でいっぱい。皇帝ダリヤ・ヒマワリ花壇の除草。アジサイの植え付け。

### ◆ 9月10日(火) 晴れ 1名+3名

近畿大学から学生がタナゴ池の調査にみえた。タナゴの産卵場所となるドブガイの繁殖は残念ながら確認されなかった。

### ◆ 9月12日(水) うす曇り 61名+6名

春日中学校生が5名、ボランティア実習のためにこられ、農園作業に汗を流してもらった。



佐保自然の森では、黄花コスモスとヒマワリが満開で見頃。

里山Gは、先週に引き続き第5地区で、蔓のからみついた樹木と格闘。農園Gは、ニンニクの植え付け、ダイコンの播種。

景観Gは、彩りの森の草刈り。丈が高くなりすぎ、刈り取りに一苦労。ならやま池の生物調査と周辺の除草。そのとき蛇が見つかったので女性会員が怖がること！！

### ◆ 9月19日(木) 快晴 55名+19名

県の景観サポーターのメンバーを対象に山作業の実習を実施。

15日夜から16日朝にかけての台風により、ヒマワリ、ソバ、ピーマンなど草丈の高い作物が倒れた。里山での樹木被害は軽微。

里山Gは、午前中は第5地区で景観サポーターの伐採作業の指導、午後はその地区の整備。農園Gは秋野菜(ダイコン、ミズナ、シロナ等)の播種。

景観Gは、彩りの森の除草と斜面の竹の伐採。水路整備。花壇の除草。ソバの花が満開。



(木村 裕)

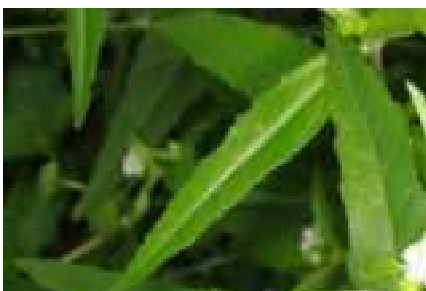


**花だより** 吉村さつき

9月12日(木) タカサブロウが田や湿っぽい所に咲いています。葉は茎と共に剛毛があり高さ10~60cm。

葉のわきから対生して枝を2度分け、その先に径1cm内外の頭花をつけます。白色の舌状花と中心の淡黄色の筒状花からなります。果実は冠毛のないそう果です。

タカサブロウ、なんだか立派な人名(高三郎)ですが名前の由来は不明だそうです。別名ボクトソウ(墨斗草)と呼び、搾汁が黒色になり、汁で字が書けることからその名がついたそうです。



▲タカサブロウ

▲頭花

【草花】クズ、キツネノマゴ、ヘクソカズラ、スズメウリ、カラスウリ、アキノタムラソウ、ツリガネニンジン、ベニバナボロギク、ミズヒキ、キンミズヒキ、センニンソウ、ヒヨドリバナ、ノシラン、チヂミザサ、アキノノゲシ、イヌコウジュ、ヌスビトハギ、ヤマウド(花・実)

【木の花】ヌルデ、フジウツギ、コシアブラ(花・実)

【木の実】シロシキブ、ムラサキシキブ、アケビ、オニグルミ、クリ、ナツハゼ、ソヨゴ、マンリョウ、コバノガマズミ、サワフタギ、カキノキ、カマツカ

【水辺の花】ミズオオバコ、キクモ、イヌタデ、ママコノシリヌグイ、カヤツリグサ、タマガヤツリ

【花壇】ヒマワリ、コスモス、ハナトラノオ、オミナエシ、キキョウ、ハマユウ、ハナショウガ、タマスダレ、トケイソウ、ヒガンバナ

**ペタキン日記** ⑪

羽尻 嵩

2. 透視度 (水質調査報告) 先月号より・・・続く

濁りの原因は、水に含まれる細分化された葉・枝・藻類やプランクトンなどの有機成分と、カルシウムイオンや鉄など重金属や粘土質の泥などの無機成分ですが、主な原因は粘土質の泥です。また、濁りの多い場所は林地よりも濾過の少ない畑地・田圃です。

昨年9月からの「ならやま」の水の透視度の調査結果は以下のようになっています。測定時はほぼ、9時から10時半です。場所は、(A)側溝・(B)東池・(C)タナゴ池・(D)ならやま池です。

<2012年9月2日> 晴れ 気温27~30℃。

(B) 30cm, (C) 28cm, (D) 9cm。

9月末ごろ、上流からの粘土を含む白濁した大量の水が流れ込み、粘土が水路・池に蓄積し、その粘土の除去に春先までかかった。

<2012年11月2日> 晴れ 気温15~20℃。

(B) 50cm以上 (C) 30cm, (D) 15cm。

<2013年1月4日> 晴れ 気温-0.1~3℃。どの箇所の水も透明。透明な状態は4月の初めまで続いた。

<2013年5月7日> 晴れ 気温21~23℃。

(B) 30cm以上 (C) 30cm以上, (D) 一面アオミドロが繁茂し測定不能だが、水面は濁りが少ない。

<2013年6月2日> 晴れ 気温24~26℃。

(A) 透明, (C) 20cm, (D) 15cm。

<2013年7月2日> 気温29~32℃

(A) ほぼ透明, (C) 32cm, (D) 30cm。

<2013年8月1日> にわか雨の後。晴れ 気温30~31℃。(A) 濁りあり, (C) 7cm, (D) 7cm。

アオミドロなし。

<2013年9月12日> 晴れ 今年の9月と気温・水温がほぼ同じ。

(A) 30cm以上 (C) 15cm, (D) 10cm。

以上の結果からみると、気温の低い冬は、濁りがなくなることがわかる。原因は、田圃からの入水がなくなることや有機物の分解が大幅に減ることが考えられる。次に、今年の夏季から11月初めにかけては、ならやま池での濁りが目立ったが、今年はタナゴ池でも8月ごろから濁りが強くなっていることがわかる。これは、田んぼに水が入る夏場に、昨年よりも今年の方が、タナゴ池の泥上げ回数が少なかったことによると思われる。

**(食用昆虫)イナゴ** 菊川年明

今年はならやまにイナゴが大変多い。最近はやears増えてきている。農薬を一切使わずに作物を栽培しているからであろう。ならやまに普通にいるイナゴはコバネイナゴである。

イナゴはわが国の代表的な食用昆虫である。昆虫を食用にしているところは地球上ではたくさんあり、いろいろな昆虫が対象になっているが、昆虫を食用にすることは民度の問題ではなく、食文化の問題である。

先の戦時中に食料不足、栄養不足を補うためにイナゴはかなり利用されたが、代用食料としてだけでなく、独特の風味があり、今でもイナゴの愛好家は少なくない。秋になるとデパートの食料品売り場にイナゴの甘露煮が並ぶが、かなり高価である。

アフリカや中国大陸などでイナゴの大群が発生し、農作物だけでなく野草まで全滅させるということはよく知られている。このイナゴ(飛蝗)と呼ばれているのはトノサマバッタの近縁種で、わが国のイナゴとは異なる。わが国産のトノサマバッタも過密状態で育てると、群生相という習性や体形が変わったトノサマバッタになり、集団で長距離移動をするようになることが実証されている。過去に北海道や鹿児島県の離島(馬毛島)でトノサマバッタが大発生した記録がある。

今年5月の新聞に、「国連食糧農業機構(FAO)が、遠くない将来に世界の人口は爆発的に増加し、深刻な食糧危機が到来するので、良質な栄養資源で経済的に生産できる昆虫の食糧化が必要との報告があった」という記事が掲載された。将来、わが国にもイナゴ工場やイナゴ牧場が実現するかもしれない。



▲ ならやまのコバネイナゴ

**ならやまパトローラー報告** 田中 修

前回で、1~4コースの紹介が終わりました。パトローラー班の一員としては、観察路の整備作業を中心に参加しています。

気付く事は、第一にいつも枯れ枝を目にすること、第二に、倒木が所々にあること。そして、草刈が必要なポイントが存在することです。しかし、数か月前に比べると観察路は、少しずつ整備されていると我々メンバーは思っています。先日も、一部ですが、ポイント⑩赤岳口からポイント⑨谷の出会いを、草刈機導入での作業をしていただいたお蔭で、大変歩きやすくなりました。

◎ポイントの設置・写真による昆虫・花・木等の掲示物も一段落し、補修の段階に入ろうとしています。



◎観察路を遮っている赤松の倒木を、2箇所ほど伐り片づけましたが、この様なことも今後のパトローラーの留意点にしたいと思いません。

◎パトローラーをして、少し驚いたことがあります、ポイント⑩、⑪の丸太の切り株にキノコ類の生物が繁殖していて驚きました。菌類が飛んできて活動するんですね。



▲ 全木枯れ葉状態



▲ キノコ類

## 馬見丘陵公園の植物観察

### 9月例会(自然教室チーム担当)

日時：9月9日(月) 10:00~14:45

参加者：17名

幹事：倉田、高本

この日は前日までと違い、爽やかな秋を感じさせる天気恵まれ、馬見丘陵公園をマイフィールドとして、数多くの自然観察会に携わっておられる田代 貢さんの案内で様々な植物を観察し、その不思議を教えていただいた。

植物の葉、花、実、種の構造や特徴を学ぶためにルーペ(虫めがね)を使って花や実あるいはその種を見てみたり、花の蕾や実・種を縦割りにしてその構造を観察したり、また植物と虫の自然界での関わりを観察したりといった一味もふた味も違った植物観察会となった。

講師として植物の不思議を様々な角度から紹介、



解説していただいた田代 貢氏による今回の観察会は大きな意義をもつものになったと感じている。

ミズキの大きな木が大きく枝をはり多くの葉が茂っているのを見て、多数の葉が少ししか重なり合わずに並んでいるだけではなく、使える空間を効率的に使って葉を配置している。つまり、長い葉柄・丸い葉身と短い葉柄・やや細長い葉が混在することによって、光合成のために隣りの葉との重なりを小さくしている。

アカメガシワの前では「アリ」をさがしてください。」との講師の声。すぐに葉の上にいる「アリ」を発見。「アカメガシワは葉身の基部近くに一対の蜜線(花外蜜腺)があり、蜜を集める「アリ」が常駐することが多く、アカメガシワは「アリ」に蜜を与え、そのかわりに他の虫からの食害を防いでもらっていると考えられている。」との説明

に一同「フーン、なるほど」。植物と昆虫の不思議な関係に感嘆。



### シラカシ・アラカシの違いを学習

ヤブガラシの巻きヒゲを手につる植物は他の何物かに自分の体を固定する必要がある。

巻きヒゲは何かに触れるとその先端で巻きつくと同時に螺旋状にねじれを生じて本体を引き寄せる。

螺旋状になった巻きヒゲはバネのように働いて緩やかに

本体を固定する役割を果たす。

この螺旋をよく見ると途中で向きが反転している。

引っ張られた場合もこの形であればねじれてちぎれることが少ない。

これらは植物が生きてゆくための知恵?(自然の不思議)が実感された。

最後には自然教室チームのメンバーがサルスベリ、オキザリス・レグネリーを解説し、ススキの葉飛ばしと言った自然遊びも取り入れた初秋の観察会は無事終了。

(高本 実男)



## 自然教室チームだより

### ◆◆◆佐保台小・昆虫観察会◆◆◆

9月11日、恒例となっている佐保台小学校放後子供教室主催の昆虫観察会が小学校校庭でもたれ、当会からスタッフが10名参加し、子供たちと楽しいひと時をもちました。

1年生～5年生の子供たち30名が参加し、男の子も女の子もみんな手に手に網を持って校庭の草むらをかけ回りました。ムシたちはさぞ驚いたことでしょう。昼寝の最中に踏み込まれ、寝ぼけまなこで飛びだした大きなバッタも御用となっていました。



2学期の始まりに向けて一部の草むらは綺麗に刈られてはいましたが、昆虫たちは健在で子供たちのよき遊び相手、よき教材になってくれました。子供たちは虫を追うのに忙しく、わがスタッフが虫カゴ係りとなり、あちらこちらから〔バッタ〕を採った、〔トンボ〕を捕まえたなど、お座敷がかなり右往左往でした。



大人でも採るのが難しいキリギリスや大きなトノサマバッタをはじめ、ショウリョウバッタ、エンマコオロギなどが虫かごに収まり、様子をみに来たトンボも大勢の子供たちに追われ、逃げ切れなかったようです。

第2部の室内での自然工作は、竹材をメインにしたセミのペンダント作りをしました。力あまって紐を通すヒートンが折れてしまい、予備のヒートンの出番も多々ありましたが、無事図鑑にも出ていないような新種の綺麗なセミがいっぱい出来上がり、こどもたちは大満足でした。



(木村 裕)

## 11月自然観察会のお知らせ

### 明日香の植物を訪ねて

- ★自然教室チームでは、11月の自然観察会として下記の通り明日香を訪ねます。
- ★自然観察に興味のある方は、どなたでもご参加ください。(詳細は会報11月号)

- 1, 日時：11月6日(水) 10時～15時
- 2, 場所：石舞台から上居地区
- 3, 案内：飛鳥里山クラブ吉田ミドリさん
- 4, 担当：倉田



## 景観サポーター体験講習

奈良県風致景観課からの要請を受けて、9月19日(木)に、受講生に「景観づくり体験活動」実施と意見交換などを行いました。参加者は受講生13名と県職員の方でした。

快晴の下、オリエンテーション後、9時半から第5地区まで歩いて移動。ここでの体験実習は、2班に分かれての竹の間伐と雑木の伐採です。当会・里山Gメンバーが夫々先生となって慣れない受講生の皆さんに鋸の使い方・伐採・整理などを指導しました。暑さと熱血指導のせいで、皆さん汗びっしょり。心地よい疲れ(?)を体験されたようです(若干、お疲れの方も見受けられましたが…)。



昼食後は、緑陰広場で意見交換。藤田会長からならやまの現況説明の後、川井・古川両氏からこの会立ち上げから現在までの苦労話や里山活動にける想いなどを熱く話していただきました。「街づくり活動」をしたいという希望の多い受講生の皆さんでしたが、熱心に聞き入っておられ、その後の質疑応答も活発。時間がかかりオーバーしましたので、最後の里山視察はコースを短縮して行いました。ナラ枯れ現象や間伐萌芽実験、あるいはニホンバラタナゴなどにもかなり興味を持っていただいた感じでした。



昨年に続いての受け入れでしたが、少しでも景観サポーター養成の一助になればと思えました。  
(森 英雄)

## 春日中学生・ボランティア体験

9月12日(木)、奈良市立春日中学校の2年生5人が、ならやまでボランティア体験活動に参加し、次のような感想文を寄せてくれました。



### 【山本君】

今回参加した「ならやま里山整備事業」は、あまり自然と触れ合うことのなかった僕にとって、とても新鮮な体験になりました。暑くて疲れたけれど、みんなで協力して作業することはとても楽しかったです。

### 【上野君】

すごく暑かったけれど、楽しかったし、結構いい経験になったと思います。会員の方が優しくしてくれて助かりました。野菜のお土産うれしかったです。

### 【木村君】

今日の体験は初めてで、とてもいい勉強になりました。またボランティアをしたいです。

### 【池上君】

今日は一緒に活動させてもらい、ありがとうございました。「自然」そして「自然を大切にする心」は、とても大事なものだということを今日学ぶことができました。ならやまでいい汗を流せたことに感謝しています。

### 【久穂君】

暑くて、虫も多くて腰も痛くなったけど、とても貴重な体験でした。自分でかぼちゃを見つけたときはとてもうれしかったです。半日と言う短い時間でしたが有り難うございました。今日学んだことを生かしていきたいです。

**やさしい昆虫講座-③⑥ お家で深く潜行して、悪さをする 木村 裕**

家庭内の昆虫と言えばゴキブリ、蚊、ハエが横綱級ですが、まだまだ悪さをして奥様方を悩ませる昆虫がいます。

皆様方のように少人数の家庭では袋を開けた米は食べ終わるまでにかかなりの時間がかかると思っています。そこで登場するのがノシメマダラメイガと言う小さな蛾の幼虫です。米粒を糸で綴り合せて食べ散らかし、周囲に虫糞を撒き散らします。米びつなどのケースで保管していると常に米がある状態ですのでいたってご満悦です。成虫は小さな蛾で水も食べ物をとらずに1週間程度生存して産卵しますのでひとたび侵入すれば米びつは快適な住処となります。

また、米に長さ3~4ミリの褐色の甲虫（コクヌストモドキ）が発生することもあります。目立つ体色をしていますのですぐに分かります。赤くても赤米の代用にはなりません。動物性蛋白としてはどうか?? 幼虫は円筒状のウジですが淡黄色ですので見つけにくいです。またこの虫によく似たノコギリヒラタムシもときどき発生します。

これらの虫は米粒ばかりでなくムギ、小麦粉、菓子、乾燥した果実、ラーメン、小鳥の餌なども無断で頂戴します。それゆえ穀物や菓子類は買いだめをしないこと、とくに米袋や米びつなどでの長期保管は食・住・安全を虫に準備しているようなものです。

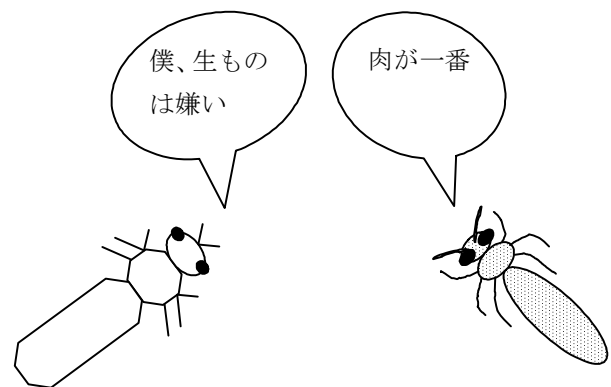
コクヌストモドキと同じグループのキュウリュウチュウを記憶されていますか? 30年くらい前に生きてまま飲み込むと強壮剤になると言われ、家庭での飼育が大流行しました。通常はパン屑で飼育していましたが、マニアは朝鮮ニンジンが良いと言っていたようです。最近はこの虫の噂を聞きませんがどうなったのでしょうか。

家具や柱、棧、梁、床板から細かい木屑がポロポロとこぼれだし、山のように積みあがる場合があります。掃除をしてもしばらくするとまた木屑が溜まっています。これはヒラタキクイムシが材の中にいた証拠です。現在社会問題と

なっているカシノナガキクイムシや立ち木に食入するキクイムシ類とは別個のグループです。先祖からの言い伝え〔生ものは食べると中毒をする〕を守り、木は木であっても生木ではなく、乾燥材のみを選んで食べ、すでに家具として加工された材が好きです。

この虫が最も好むのはラワン材で、ついでナラ材です。飛来した成虫は材の導管の切れ目の中に浅く産卵します。孵化した幼虫はトンネルを掘り下げて行きますが、近代工法をもちいるせいか木屑や虫糞は外に出さずに坑道内にうまく貯めこみますので中がボロボロになっていても外からは被害はまったく分かりません。やがて成虫となり、外へ飛び出すときに溜め込んだ木屑・虫糞を一気に外に放り出しますので突然被害が現れたかのように見えます。

竹製品は最近減少していますが、竹の中を食い荒らして内部をボロボロにする虫もいます。タケトラカミキリやタケナガシンクイが犯人でラワン材にはつきません。



家の中でアリにチクッと刺されたたことはありますか? 畳の上をふんぞり返って偉そうに歩いているアリが見つかります。これはアリではなくてアリバチという虫です。肉食性で通常は畳に発生するシバンムシ（5ミリにも満たない甲虫の仲間）を餌としていますが、その通路を妨げたので怒って噛み付いたのです。一つ屋根の住人として仲よくしたいものです。



隠れ古社寺 ひとり旅 ⑩

鏡作坐天腰細魂神社

歴史文化クラブ

川井 秀夫

古代史を追いかけていると、神話から律令政治の確立まで歴史の転変が面白い。

そんな中で、ふと生活文化の変遷に思いを巡らしてみた。紙はいつ頃から庶民に使われだしたのか。鏡はどうなのか、女性の美容、着付けなど、男性の調髪、髭剃りなど、縄文・弥生から履物はどの様に変化していったのか。興味が尽きない。

それぞれの過程は紙数が少ないので、別稿に譲るとして、かねがね頭の中にあつた鏡発祥の地、田原本町・石見町界隈の鏡作部を訪ねてみた。

幸い弓場厚次氏が出身地であることから、彼の四駆の愛車を駆って現地に入る。初めての「ふたり歩き」となる。

代表格は鏡作坐天照御魂神社、(カガミツクリニマス アマテルミタマ)と読む。田原本寺川のほとり県道に南面して雄大な朱色の大鳥居が眩しい。



樹林に挟まれた参道を一町ばかり、本殿は朱塗りが鮮やか三間流れ造りのカーブが印象的。創建由緒は定かでないが、祭神は天照国照彦火明命・石凝姥命・天児屋根命の三柱、神宝は三神二獣鏡と言う。



この地は、鍵・唐古遺跡に近く銅鐸の鑄型が出土した事から鏡作部の工人集団が村落を形成し、総社の別社・末社が散在する。縄文・弥生期との歴史的な繋りは不明だが、神話の八咫鏡にまつわ

る神々を信仰の対象とした生業の姿が見えてくる。

総社は昭和19年。東南海地震により壊滅的な被害を受けたが、大手硝子メーカー・加工業者の寄進により再建されたと言う。

別社・末社に向う。保津 鏡作神社・宮古伊多神社・鏡作 麻気神社・更に三宅町に飛んで石見 鏡作神社。それぞれの大字(オオアザ)に鎮守の神々が祭祀されている。イチイガシ・カヤ・クスなど巨木が時代の経過を物語る。

町を歩いて気がついた。八尾・今里・小坂の地名が目に入る。東大阪の地名と共通点があり、この地から金属加工の工人たちが移動したとも考えられ興味深い。

今回、予備知識を通じ、鏡の起源は人間と同じ位古く、類人猿たちは自己認識の所作を身に付けていたと言う実験結果もある。

水鏡～石鏡～銅鏡～硝子と水銀による表面鏡として平安後期に多様化され、江戸前期から大量生産に発展していったと思われる。

弓場さんありがとう。車は便利ですが、一方不便ですナ。一杯の酒のサービスが出来ず心残り。

いつのまに布団を被る処暑の快 八木順一

熱帯夜が続く。ふと気が付くと今日は処暑。暑さは峠を越し、無意識に掛け布団を引き寄せる。音もなく晩夏がやって来た。生活俳句の佳句。

ひと皮を更に脱ぎたく極暑かな

八木順一

今年の夏はことのほか暑かった。着衣無用。叶うなら我が身を包む皮膚までもお気持ちちは充分。因幡の白兔になりますぞ。我慢、我慢。

風立つや残暑転がる蕎麦の畝

古川祐司

今年も蕎麦の播種が始まる。残暑の日照りが厳しい。秋の花実を、夢追い人の思いが汗となる。

指ほどの小茄子を愛でておろし和え

古川祐司

里山の茄子は上々。特に小茄子は使い勝手が良い。糠漬けの丸齧りは、食の醍醐味。料理人の作者はおろし和えか。アイ・シー。



# 俳句百景

監修 川井秀夫

つくつくし天の声かな飛行雲

西谷範子

「つくつくし」はつくつく法師の俳句言葉。秋の季語。蝉の声に天を仰ぐ。鳴き声は夏の挽歌であろうか。空には一条の飛行機雲。叙情的な作者らしい一句。

葛の花甘き風分け二輪かな

西谷範子

はびこる葛も、花は艶やかで美しい、愛車の二輪を駆って野道を疾走。甘い芳香が鼻孔を擽る。一章一句仕立ての骨法が生きた一句。

朝採りの痛さが嬉し茄子の棘

川井秀夫

茄子の袴には托葉針がある。素手で掴むとピリツと痛い。露に濡れた紫紺の姿に痛さを忘れる。茄子よ、茄子よ、恨むじゃないぞ。

にわたずみ楯の景風に秋を知る

川井秀夫

「にわたずみ」は大雨の後の水溜まり、溢れた水の流れを言う。雨上がりの木々を揺らす風。里山の秋の序曲が始まる。

癒しの散歩道

怒れる自然の魂を聞け

谷川 萬太郎

爽やかな青空に浮かぶ秋雲よ 季節を越えた心の寂しさはなんと切ない  
 思えば過ぎ日の夏の追憶は 光輝く太陽の日照りの中で過ごした日々  
 季節を嘲笑うゲリラ雨に翻弄され 予期せぬ静かな自然の怒りが爆発した  
 時節の時計の針を狂わしたのは 汚れた地球に住む人間の仕業なのか  
 奪れ高き豊かな自然の美しさと尊さよ 人よ目覚めよこの自然の叫びを聞こう

移りゆく季節を惜しむよに夕映えの中で 季節の海を渡る鳥達が別れを惜しむ  
 果てない夢に消えそうな自然の叫びに それがたとえ辛くとも遅く生きるんだと  
 昔懐かしき山里の匂い秋の空に煙りて 旅路の果てに自然の哀歌静かに流れる  
 柔らかな人の心の温もりよ忘れかけた故郷 愛しき自然の心を慈しみ抱きめんど  
 街の外れに季節を追われた夏の抜殻だけが 落ち葉のように秋の夜風に消えた

ならやま  
茶 論

「文句無」

竹本 雅昭

～名札(マグネットシール)が立看板上で会話～

X：今日も里山ですか、大体いつものメンバーのようですね。  
 Y：あっしの影武者は樵に向いているようでね。  
 Z：うちの旦那はまだまだ気合十分でね、すんなり倒れない木には吊り出し技で決めるのが快感のようです。  
 X：我々は男札でグリーンだけど、時々旦那衆が面白そうに、これを年齢別色分けしたらどうかと並べたりしてるけど、そうなったら三色位に分けられるかな。  
 A：ちょっと、こそこそ何話してるの、そんなこと黄組は絶対許さないからね。  
 B：そうよそうよ、いつまでもはじらい多い乙女心でいるんだから、まったく プンプン！！  
 Z：そうだそうだよな、アハハ…。  
 X：うちの影武者が一人で想像笑いしていることがあるんだよ。

Y：ほう、ひまだからは是非聞かせて。  
 X：人々はペタペタと無造作に張っていくけど、この様を米国TVの探偵「モンク」が見たらどう反応するだろうかと。  
 Y&Z：どうなるんだい早く先を。  
 X：無類の潔癖症のモンクは握手する度にティッシュで拭く位だから、我々の乱雑な名札に集中、人の話など耳に入らずサッサと上下左右キチッと張り直すだろうってね。  
 Y&Z：へえー、そんな人やったらこの里山ではとても神経がもたんだろな。  
 A&B：そうそう、たわい無い話だけにしといてね。



# Gallery ならやま

デッサン (有元康人) 「カラカラ帝」

- クラフト (田中克彦) ① 小鳥の巣籠もり  
② 虎  
③ 恐竜  
④ トンボ



① 小鳥の巣籠もり



② 虎



③ 恐竜

## ▼ カラカラ帝



④ トンボ



# ならやま 旬景

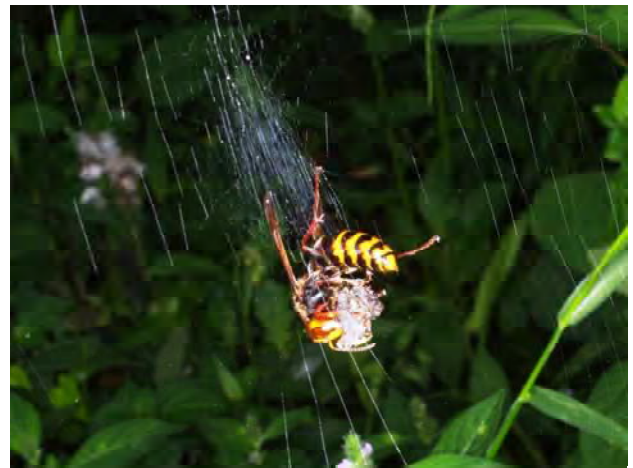
## 童話 ハチさんとクモさん

9月のある朝、ならやまでジョロウグモさんが、せっせと網を張り朝飯の準備をしていました。

そこへ朝のジョギングをしていたアシナガバチのおばさんが通りかかり、不運にもクモの網に羽を引っかけてしまいました。

クモさんは大きな獲物がかかったので「シメタ！大漁だ！」と、大喜びで走り寄って行きました。

クモさんは、喜びのあまりちょっとした油断があったのでしょうか。貼り付けになっていたハチさんの足技で、捕まってしまいました。



怒り狂ったハチさんは、「この野郎！ふざけやがって！」と、クモさんの頭にガブリと噛み付きました。クモさんは獲物を食べるどころか、逆に獲物に食われる羽目になりました。

主を失った網の糸は、ハチの振動によりやがてプツンと切れ、ハチさんは獲物を抱えて、意気揚々と去って行きました。

クモさん、相手が悪かったですね。獲物は自分で料理できるものにしましょう。

(永井幸次、木村裕)

▼ツマグロヒョウモンとニラの花



▼ 満開のソバ畑 (第5地区)



▼フラワーロード (佐保自然の森)



◀ 花ジンジャー

# ならやま景観整備

## 活動予定日

10	3 (木)	10 (木)	17 (木)
月	24 (木)	31 (木)	
<hr/>			
11	7 (木)	14 (木)	21 (木)
月	28 (木)		

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林  
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時



### 10月3日

- <里山Gr> 椎茸ホダ木天地返し  
第五地区通路整備および竹林周辺整備
- <農園Gr> 水稻の稲架用竹の準備  
茄子の撤去と後片付け
- <景観Gr> B.C.、彩の道草刈り  
春花種蒔き、ビオトープ園池の整備



### 10月10日

- <里山Gr> はざ架け用竹切出し  
第五地区通路整備および竹林周辺整備  
薪小屋作り・薪作り  
ナラガレ対策の実施
- <農園Gr> 茄子畑後畑にチップと堆肥の搬入散布と耕耘
- <景観Gr> ならやま入口付近草刈り  
機械整備  
春花種播き、日陰園移植  
水生生物調査と池の整備

### アクセス

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
  - ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場  
8:27発、高の原行き（平日）
  - ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場  
8:38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」で下車 徒歩7分



- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）
- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。
- ◆ 連絡先：木村 裕



### 10月17日

- <里山Gr> 芋掘り大会準備  
第五地区通路整備および竹林周辺整備  
薪小屋作り・薪作り / ナラガレ対策の実施
- <農園Gr> 各種野菜畑除草、追肥など
- <景観Gr> B.C.、彩の道草刈り・倉庫整理  
佐保自然の森草引き・夏花撤収 / 池の整備

### 10月24日

- <里山Gr> 第五地区通路整備&竹林周辺整備  
薪小屋作り・薪作り / ナラガレ対策の実施
- <農園Gr> 稲刈り 午前：佐保台小→南側水田  
稲刈り 午後：会員→→→北側水田
- <景観Gr> 彩の道草刈り  
皇帝ダリア撤収、春花植え付け  
水生生物調査と池の整備

### 10月31日

- <里山Gr> 第五地区通路整備&竹林周辺整備  
薪小屋作り・薪作り / ナラガレ対策の実施
- <農園Gr> 脱穀（午前：佐保台小）  
脱穀（午後：会員）
- <景観Gr> 田んぼ草刈り  
山野草園草引き・施肥  
池の整備





# 行事案内

## 10月例会

### 福井研修旅行

10月28日・29日

#### —二次募集中—

9月20日締めで参加一次募集を行いました。只今30名のお申込みです。定員は40名です。現在二次募集を行っています。(定員になりましたら締切ります。)皆で、秋のバス旅行を楽しみませんか。お友達ご同伴も歓迎です。

実施日；10月28日・29日

会費；23,000円(一日目昼食付)

集合；近鉄「高の原駅」AM 8:00

#### 【10月28日】

- ・特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡 = 戦国時代の興亡を今に伝える遺構 散策
- ・「農事法人 コムニタ」= 優れたシステムの町おこし事業法人
- ・宿泊先 溪流温泉「冠荘」= 大自然に囲まれた山あいの温泉 全館貸切

#### 【10月29日】

- ・福井県立恐竜博物館 = 勝山市で恐竜の全身骨格が発掘されたのをきっかけに設立された質量ともに日本一の恐竜博物館
- ・中池見湿地 = ラムサール条約に登録されている日本の重要湿地。3000種の動植物の生息地。屈指のトンボ生息地(71種)

【申込先】；寺田 孝

「ならやま」に、置いている申込書に記入。

## 11月例会 歴史文化クラブ共催

### 平群の郷を訪ねる

深まりゆく秋、時をめぐる色彩の風景を愛で、寒菊の田園のなか、古代遺跡を巡ります。

- 1, 日時：11月12日(火)
- 2, 目的地：平群の郷
- 3, 集合：近鉄南生駒線・竜田川駅  
am 10:00
- 4, コース：(平坦道 約7km)
  - ① 烏土塚古墳 ② 石床神社
  - ③ 消渴神社 ④ 西宮神社(昼食)
  - ⑤ 平群神社 ⑥ 楢本神社
  - ⑦ 長屋王墓 ほか
- 平群駅解散 pm 3:30
- 5, 準備：弁当持参、飲物ほか
- 6, 担当：寺田 孝・川井秀夫・弓場厚次



消渴神社

#### ◆歴文クラブより【お断り】

10月に計画しておりました「神武東征の足跡を訪う」は、一泊研修旅行など日程が調整出来ず、来年度に延期いたします。ご了承ください。

## 奈良学クイズ

【問】 写真の塔についてお答えください。

- ① 奈良県内のどの寺院に所蔵されていますか。
- ② 造られた年代を、時代名でお答えください。
- ③ 重要文化財ですか。国宝ですか。

【応募方法】



応募締切  
：10月2日

正解の方には  
赤米or黒米を  
進呈します。

### 平成25年・9月度幹事会報告

◆日時：平成25年9月3日(火)

17:00~20:00

◆場所：奈良市中部公民館

◆出席者：幹事17名 顧問1名

◆案件：

- ①会員動向、会計報告 (会員は146名)
- ②例会、自然教室、ならやま等の活動報告
- ③ナラ枯れ調査結果に基づく今後の対策
- ④第5地区の整備計画と進捗状況について
- ⑤H26年新春講演会の講師・テーマについて
- ⑥ネイチャーなら10月号編集内容について
- ⑦奈良県景観サポーターの実習支援について
- ⑧9~11月の行事予定の確認、その他

申し合わせ  
事項

ならやま環境整備活動や  
野外行事は、前日午後7時  
前のNHK TV天気予報で  
降水確率が午前60%以上の  
場合は中止になります!!



♪ 真夏日が続いた季節も過ぎ、  
ようやく秋の訪れが感じられるよう  
になってきました。秋野菜の種蒔き

に追われる日々です。皆さんの種蒔き技術が、  
年々上達してきているのを、芽生えの綺麗さ  
が証明してくれています。

♪ 黒米と赤米は、台風の影響なども受けず  
に、稲穂が頭を垂れて成熟しつつありま  
す。一方、里芋もようやく元気になってきま  
した。12月12日(木)に予定しています  
「芋煮会」が楽しみです。

♪ 一日の業を果たして酒を酌む  
色々な人生経験を積み重ねつつある方々との  
新しい出会いがあり、酒食を共にしつつ暫し  
歓談。古稀にして新しきことを学ぶなりです。  
「近助力」の大切さも合わせて実感。(里山人)

### ペン画によせて

#### 境 寛

中近世の町並みが残る奈良町のそぞろ散歩  
もいいのですが、あまり知られていません奈良  
町のもうひとつの魅力が、街角に多くの彫  
刻があることです。これは「彫刻のあるまち  
づくり事業」として、現代作家の彫刻を設置  
され、芸術に身近に触れ合える町なのです。  
このペン画は、奈良市福智院にある「今昔の  
ひだまり」(松村達也作)という女の子が遊ん  
でいる一群の一つです。芸術の秋を散歩して  
みませんか。

会報誌[ネイチャーなら]・第141号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田秀憲

<http://www.naranature.com>



11月号の印刷・発送予定について

日時：平成25年10月30日(水)am9:00~

於：奈良市ボランティアセンター



編集チーム・代表 鈴木 末 一

### 奈良学クイズ・続

◆ 9月号の正解は、次のとおりです。

【問1】日輪山新薬師寺 【問2】豊山長谷寺



10月から「ならやま」では、お昼に地産  
野菜等を使った味噌汁・豚汁等を賞味で  
きます。必ず食器類をご持参ください。

月1回【男の料理教室】も開かれます。乞！ご期待。